

房総の 文化財

VOL. 19

平成11年8月31日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

縄文時代早期の集落とキッチン

—八千代市間見穴遺跡—



間見穴遺跡上空から印旛沼低地を望む（南西から）

間見穴遺跡は、八千代市の北部を流れる新川（旧平戸川）を見下ろす台地上にあります。平成10年度までの調査で、旧石器時代から中・近世にかけての生活跡や遺物が多く見つかかり、長い時代にわたって人々が暮らしていたことがわかりました。

なかでも、縄文時代早期末（約7000年前）の竪穴住居跡4軒・炉穴27基・貝ブロック20か所などがま

とまって出土した例は、全国的に見てもめずらしく、当時の生活の様子を知る上で貴重な資料となっています。

この炉穴は、大人一人がゆったり入れるほどの大きさです。使い方は、穴の中で火をたいて食べ物を煮たり焼いたりする“半地下式キッチン”のようなものと考えられます。このころは家の外でも調理をしていたのでしよう。

貝ブロックは直径5mほどの大きさです。出土した貝の種類は、ハイガイ・マガキ・オキシジミをはじめとして、アサリ・ハマグリなどです。当時は、印旛沼まで海水が入り込んでいたので、縄文人はここで潮干狩りや魚とりをしていたのでしよう。貝ブロックはその証です。

今から約7000年前の“間見穴縄文人”は、眼下に広がる干潟と炉穴から立ち上る煙を眺めて、何を思っていたのでしょうか。



写真の炉穴は4基重なっており、火をたいた跡が5か所発見されました。全体の大きさは約4m×3m、深さは約1.1m。○は、火をたいた跡。



炉穴で調理しているようす（想像図）
イラスト/石井歌織



遺物紹介コーナー

古代人が書いた文字・墨書土器

—印西市鳴神山遺跡—



上の写真は、古代人が書いた文字です。すぐに読める文字もありますね。

このように、土器に墨で文字・記号・顔の絵などが書いてあるため、墨書土器と呼ばれています。

今回紹介するのは、鳴神山遺跡（北総・公団線：千葉ニュータウン中央駅南側）で見つかった墨書土器です。ここでは、奈良時代から平安時代初期（主に9世紀代）の土器がたくさん出土しました。そのうち、小さな破片も含めると

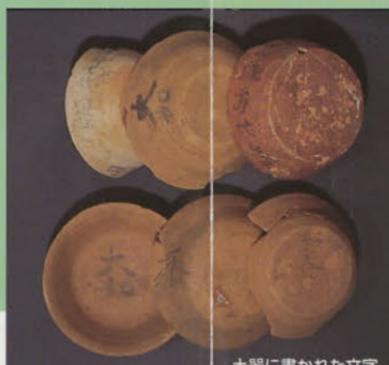
約600点の墨書土器が見つかりました。

墨書土器は、一つの土器に一文字で「大」①「富」②「依」③、二文字で「大加」④などと書かれています。これらの文字が書かれた墨書土器は、県内の遺跡でも数多く見つかっています。

さらに、一つの土器にたくさんの文字が書かれていたものもありました。写真⑤は、「丈部山城方〜」と書いてあります。「丈部山城」は

人名だろうと考えられています。そのほかに、「丈」「丈部」「丈尼」だけの墨書も見られ、この辺一带を治めた一族・丈部姓を表したものだと言われています。これと同類の文字は、八千代市を流れる新川周辺の遺跡でも出土しており、注目されています。

古代人が残した墨書土器は、地名・人名を表したもののほかに、宗教的な儀式や、まじないなどに使われたと考えられていますが、まだ謎の多い分野です。



土器に書かれた文字

遺跡今昔物語

ひがしかつか しゅうらん
東葛飾—舟運から陸の交通へ—
じょうばん
常磐自動車道発掘調査

常磐自動車道は、埼玉県（三郷市）から千葉県・茨城県を経て福島県（いわき市）まで続く全長約190kmの高速道路です。このうちの8.6kmが県北西部の柏市と流山市を通過しています。

道路の建設工事に先立って行われた発掘調査は、昭和52年から57年までの5年間にわたり、17の遺跡に及びました。

調査は、利根川に近い遺跡から始められ、江戸川に向かって進められました。調査の結果、旧石器時代後期（約3万年～1万2千年前）から江戸時代にわたる、様々な時代の遺構（生活や施設の跡）と遺物を見つけることができました。中でも、花前遺跡の「鉄づくりのムラ」の発見は、話題を呼びました。現在、遺物の一部は県立上総博物館（木更津市）や当センター資料室（四街道市）などで見ることができます。

江戸時代以降、この地は江戸川と利根川の舟運で大いに栄えました。とりわけ、高瀬舟による定期航路は重要な位置を占め、大量の物資を江戸にもたらしました。近代になると、蒸気船が運航されますが、高瀬舟はまだまだ舟運の中心で、大正時代（関東大震災の前）まで活躍しました。その後、舟運は急激に衰えます。現在、この地域はすっかり陸の交通に移り変わり、都心に隣接したベッドタウンとして、新たな町作りが計画されています。



写真1：昭和55年撮影

工事と発掘調査が同時に進む。柏インター・チェンジ付近

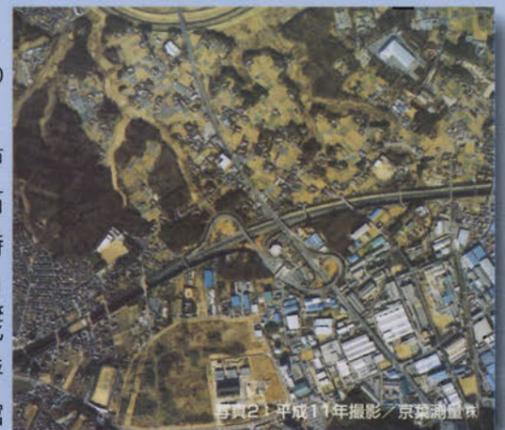
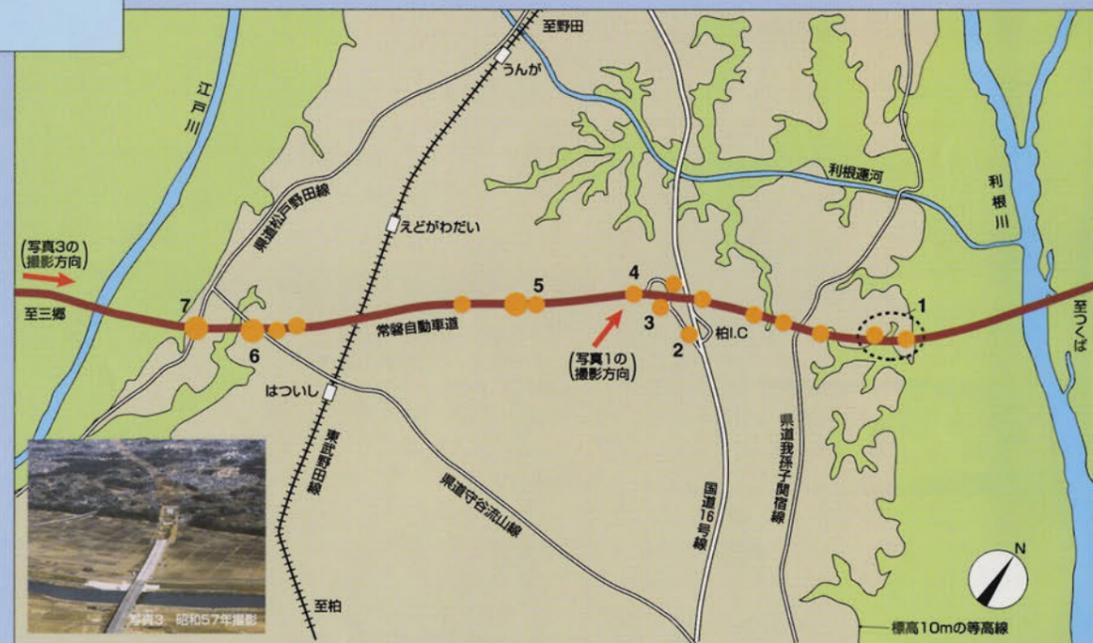


写真2：平成11年撮影/千葉県建設局

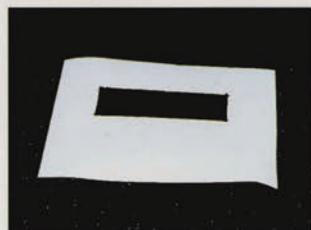
現在の常磐自動車道柏インター・チェンジ上空



1. 花前遺跡
平安時代の鉄づくりのムラ
江戸時代の屋敷跡
2. 元割遺跡
旧石器時代の生活跡
3. 聖人塚遺跡
旧石器時代の生活跡
4. 中山新田Ⅰ遺跡
旧石器時代の生活跡
5. 馬土手
流山市青田に所在
江戸時代の放牧場の周囲にめぐらされた土手跡
6. 若葉台遺跡
縄文時代前期のムラと貝塚
7. 上貝塚遺跡
（現在の桐ヶ谷南割遺跡の一部）
古墳時代後期のムラ

科学の目コーナー

— せきがいせん そうち 赤外線テレビカメラ装置の話 —



肉眼では文字は見えません



赤外線をあてると文字が見えます

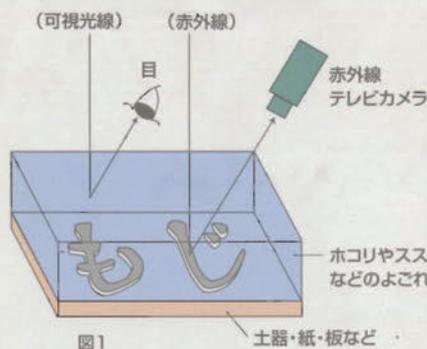


図1



赤外線テレビカメラ装置

ワープロで打ち出した「赤外線」という文字を、サインペンで塗りつぶしてみました。肉眼で見ると、左の写真のように下の文字は見えません。しかし、赤外線テレビカメラ装置で撮影すると、右の写真のように、塗りつぶした文字がはっきりと見えます。

私たちが肉眼で見ることのできる光（可視光線）は、インクなどのよごれの層に邪魔されてしまいますが、赤外線はよごれの層を通りぬけて下の文字にまで届きます（図1）。これを赤外線テレビカメラ装置で撮影すると、目では見えない文字が見えるようになるのです。

文化財の分野では、木簡・漆紙文書（漆液を入れた容器の蓋紙として使用された反故文書＝不用になった文書類）・土器の墨書・絵馬・天井画など、ホコリヤス、漆などで

文字や絵が見えなくなっている資料の調査に、赤外線テレビカメラ装置を利用しています。文字や絵などの上に付着したものを落とさずに見ることができるので、大切な資料をいためずに調べることができます。

また、下の写真のように、消えかかった文字をはっきり見たいときにも利用しています。



肉眼でははっきりしない墨書(左)が、赤外線をあてるとクッキリと見えます(右)



お知らせコーナー

●『今、古代史が面白い』

— 出土文字からさぐる房総の古代 —

★財団法人千葉県文化財センター設立25周年記念展★のご案内

古代の人々は、いろいろな思いで文字を書き記しています。本号で紹介した印西市鳴神山遺跡から出土した墨書土器もその一つです。不思議なことに、千葉県は、墨書土器の出土例が最も多い県です。今回の展示会では、墨書土器から房総の古代の歴史をさぐります。

■さわやかちば県民プラザ

展 示：平成11年10月2日(土)～10月17日(日)

フォーラム：平成11年10月17日(日) 無料。申込みは下記資料課まで

交 通：〔JR常磐線・東武鉄道野田線〕柏駅西口から東武バス2番乗り場「柏の葉公園経由国立がんセンター」行き20分、「柏の葉公園」下車徒歩1分

■千葉県立安房博物館

展 示：平成11年10月30日(土)～11月28日(日)

講 演 会：平成11年11月23日(火)〔勤労感謝の日〕

交 通：〔JR内房線〕館山駅西口から徒歩10分

●問い合わせ：(財)千葉県文化財センター資料課 ☎043-422-8811(代表)

*「設立25周年記念展」は、12月に千葉県立大利根博物館においても開催いたします。詳しくは、広報紙20号でお知らせします。



● 発掘調査遺跡見学会のご案内

会場：市川市堀之内南遺跡

(市川市堀之内2丁目：市立市川考古博物館そば)

日時：平成11年9月11日(土)午後1:30から3:30まで

内容：低湿地遺跡(主に縄文時代)の現地見学と遺物の展示
問い合わせ：(財)千葉県文化財センター西部調査事務所
☎0471-56-0440

● ビデオ・ライブラリーを授業などに活用してみませんか!

当センター制作のビデオテープを学校団体などに貸し出しております。

問い合わせ・申込みは、当センター資料課まで。

内容は次のとおりです。

- ①『古代を未来につなぐ』〈文化財センターの仕事〉
- ②『房総の誕生と狩猟採集生活』〈旧石器時代から縄文時代〉
- ③『弥生人と古墳の世界』〈弥生時代から古墳時代〉
- ④『都とむらのくらし』〈奈良・平安時代〉 【各約20分】

■表紙について

- ①⑤⑦⑧(柏市花前Ⅰ・Ⅱ遺跡出土杯)、②⑥(木更津市久野遺跡出土杯)、③④(栄町大畑Ⅱ-1遺跡出土杯・平瓦)

撮影：堀越知道

